

本企画は、連合会の頂点で輝くE-club会員をご訪問する新シリーズです。E-club会員ならではの足跡や人となりのご紹介が、代理店経営の参考となれば幸いです。第一回は、老舗の多い浅草で半世紀近い歴史を積み重ね、連合会設立に尽力され初代会長も務められた湖口雄蔵さんにお話をうかがいました。



日々培った 人間関係こそ 一生涯の財産

有限会社 湖口保険事務所 代表取締役
湖口 雄蔵

略歴

1939年		茨城県水戸市生まれ
1967年	28歳	湖口保険事務所設立
1970年	31歳	日本初、代理店による「アメリカ保険業界視察」
1989年	50歳	有限会社湖口保険事務所法人化 アリコジャパン代理店登録
1992年	53歳	アリコジャパン全国代理店会 連合会初代会長就任(3期6年)
1995年	56歳	10名による異業種交流会発足
1997年	58歳	アリコジャパン全国代理店会 連合会初代会長退任
1998年	59歳	長女入社
2003年	64歳	次男入社
2004年	65歳	週刊ダイヤモンド誌掲載

趣味：ゴルフ 旅行 カメラ撮影 読書
健康の秘訣：毎朝のストレッチとほぼ毎週末のゴルフ
ご家族：奥様

転機

創業時の苦労こそ 最高の思い出

湖口さんの半世紀の代理店生活で、創業時ほど思い出に残る時期はないとおっしゃる。独立開業が保険会社OB中心の時代に、素人も同然の湖口さんはわずか28歳で保険事務所を起業。すでに家庭を持ち、生活費を途切れさせるわけにはいかない中での船出。運転資金を親から借りたものの、「5年で成功しなかったら、実家に戻る約束でした」。まさに背水の陣です。慣れない飛び込み営業の日々、奥様も会社勤めで家計を支えたそうです。やがて徐々にご契約をいただけるようになり、機を同じくして高度成長の風が日本に吹き始めました。そして1970年6月、代理店仲間と日本初「18日間のアメリカ保険業界視察」へ。開業3年目のことです。この頃を契機に、湖口保険事務所は今日の成功へ向かってようやく軌道に乗りはじめました。

顧客

お客様に信頼されること お役に立てること

「生涯パートナー」。キーワードのように会話でよくお使いになる言葉です。数多くある保険代理店の中で、より多くの企業や個人のお客様を増やし続けていくには、役に立つ代理店になることが大切だと説きます。「保険でお役に立つことはビジネスだから、ごく当たり前のこと」。湖口さんが実践しているのは、何ものにも勝る後援者であるお客様のために、保険以外でもお役に立つことです。早くから専門家を集めた異業種交流会をはじめたのも、そのプロフェッショナルな人脈をお客様のニーズに合わせて紹介し喜んでいただくためでした。それこそが信頼を得る道だと信じているからです。いまでは、お客様のよろず相談事に、自ら解決の糸口探しや資料集めに奔走。汗をかくことがまるで快感のようにお見受けしました。

経営

人間関係こそ最優先に 父から学んだ“生き方”

「父は、男気の強い人でした」。曲がったことは許さず、大事にむけては自分の身を顧みないで突き進む方だったようです。仕事にも強い信念を持ち、「商売を営んでいた父には、見ず知らずの人間も援助するなど、人との信頼や絆を大切にすることを後姿から教わった気がします」。あるとき、湖口さんが昼間勉強していると、「勉強は一人でもできるから夜しなさい。昼間は高いのために使いなさい。商いは相手があって初めてできることだから」と諭されたことが、いまも印象に残っているそうです。代理店として、また人として、何よりも信頼関係に重きを置いているのは、お父様から学び受け継いだ“生き方”を全うしているからに違いありません。ご本人は照れて、「世話好きだけ」と笑っていらっしゃいましたが……。

承継

営業に奇跡なし 営業に継続あり

「現在、連合会のスローガンとなっている“二本一を日本一”は、私が連合会の設立総会のあいさつで使った言葉です」。今日も連合会を見守り続ける湖口さんにとって、このスローガンとともに生涯貫いている生き方があります。「時代の変化につれて営業環境が変化することがあっても、人間の本质は変わりません。真面目に努力を続け、当たり前のことは、当たり前に取り組む。言われたことは、言われたとおりに実行する。約束は必ず守る。そうすれば、世の中の変化や新商品のセールスにも、かならず対応できます」。「ビジネスに奇跡はなく、努力を続けることこそ最善の営業」と言い切ります。その胸中には、2年後にひかえたご子息への事業承継の期待が、大きく広がっているようでした。

わたしの 思い出 の品

父からのプレゼント「ハーモニカ」

湖口さん小学4年生のクリスマスの朝、目覚めた枕元にそっと置いてあったのが、このハーモニカ。「戦後間もなく、まだまだ物の足りない時代。父に頼んだ記憶も定かではありませんが、銀色に鈍く輝くハーモニカは例えようもなく嬉しかった」。以来、趣味の旅行に出るたび、「気に入った場所を見つけては、ハーモニカを吹くのが楽しみ」だそうです。

